

市長:皆さんこんにちは、川崎市長の福田紀彦です。5月1日金曜日かわさきコロナ情報をお伝えします。今日は、川崎市の健康安全研究所の所長である岡部信彦医師に来ていただきました。岡部所長は、これまでWHO、国立感染症研究所を経て、今川崎市の健康安全研究所の所長を務めていただいております。今日も専門家会議が終わったばかりだと思いますけれども、国の専門家会議の委員、諮問委員会の委員も務めておられまして、まさに我が国の感染症対策の第一人者です。皆さんのコロナに対する医学的な疑問やテレビなどでいろいろなことが言われていますので、より正確な情報を、私と岡部所長との会話を通じて、皆さんにお伝えしていきたいと思っています。国の専門家会議が終わったばかりだと思うんですけども、今言える話の範囲内で、どんなことが話し合われてきたのか、御紹介いただいてもいいでしょうか

岡部所長:まず一つは、現状の分析です。首都圏、関東全体を合わせたところ、あるいは大阪を中心にしたところで、(感染者数等が)上がってきたのが少し収まりかけているって感じがします。ただ、増え方は早いんですけども、落ち方としてはスローだなどということで、ただこれは、今は点でしか見てないので、これを線として見るには、もう少し時間があるので、全体的に本当に落ち着きそうかどうかというのは、連休前に直近のデータを見て検討しようというところです。それから、医療機関は確かに新規の患者さんは少し減ってきた感じがあるんですけども、人工呼吸器をつけるとその方は1週間、2週間、場合によっては4週間ぐらいつけることがあるので、医療機関としては、今の状況でなくなると、すぐに楽になるというのではなく、むしろこのまま横ばい状態になって、重症の患者さんも軽症の患者さんもみえると思われるので、医療は決して楽にはなっていない。ということは、新しい患者さんがどんどん増える状態では困るということなので、多くの方をお願いをしなくてはならないのですが、これで連休に入って、患者さんが増えると、せっかくここまで減ってきたものが最初から振出しに戻ることが懸念されている。最終的な結論はもう少し先ですけども、もう少し我慢をする、我慢のレベルをどの程度にするかはこれから検討するんですけども、すっかり前の状態に戻るってことじゃないということが今回の専門家会議での意見です。

市長:昨日も安倍総理が、元の状態に戻るっていうのが今すぐには難しいというような発言をされていて、5月6日の緊急事態宣言を延長するというような趣旨の発言をされておられますけれども、実際にはもう1回諮問会議にかけて決定するという形になるんですね。

岡部所長:そうですね。もう一度専門家会議をやって、直近のデータを分析して、その意見を諮問会議にかけて、諮問会議の方が専門家だけでなく、もう少し幅の広い方がお

いでのになるので、その会議で、了承するような形で政府にあげる。そういう順番になる。

市長:それが今度のゴールデンウィーク期間が終わる前にあるということですよ。いずれにしても、このゴールデンウィークの行動をしっかりとやっておくことっていうのが、その次につながるということですよ。

岡部所長:こういった方法で収まって来るのは、世界では稀なやり方で、このような丁寧なやり方では、なかなか他の国でできていないんですね。そういった意味では、このまま、良い方にも向いてくれれば、非常にユニークな方法だけでも、きちんと抑えられるというふうになるんじゃないかと思います。

市長:今、医療機関のひっ迫の話がありましたけども、確かに入院されると長期間になるということがあるので、川崎市内でも、重症の方を受け入れる高度な医療機関、中等症を受け入れる重点医療機関、重点協力病院と三つに分けて整備をしてきて、川崎市は重症、中等症のところでは200床が求められているんですけども、現時点では、重点協力機関まで合わせると、281床が整備できていて、高度と重点だけでも、256床までできているということなので、市立病院だけでなく、民間の医療機関の皆さんの御協力で、ここまで整備できたというのは、本当に感謝しています。これからも本当に今後に備えてやはり病床確保が重要な課題だと思っているので、これをしっかりやっていきたい。

岡部所長:本当にむしろお願いをしなくてはならない。ただ、川崎ではこういう仕組みが突然起きたというわけではなく、パンデミックインフルエンザが起きたらどうしようという、こういった状況にはなり得ると、民間の医療機関と行政が検討を続けてきたということが、結果として繋がっている。

市長:そうですね、そういった意味で、県の中で、川崎市の医療機関との住み分けという関係が非常に良くできていたので、やりやすかったところもあるかもしれません。